

旧上瀬谷通信施設における基盤整備及び国際園芸博覧会の開催に向けた取組状況について

1 旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート（案）の市民意見募集結果について

旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート（以下「デザインノート」）（案）について、令和4年12月21日から令和5年1月20日まで市民意見募集を実施しました。

今後、いただいたご意見や、横浜市旧上瀬谷通信施設地区活用事業審査委員会（以下「審査委員会」）、市会のご意見等を踏まえ、デザインノートを策定し、募集要項の付属資料として公表していく予定です。

【参考1】市民意見募集結果概要

- 意見通数：239通（意見総数714件）
- 主な意見

| | |
|--------------------|---|
| 全体 (457件) | <ul style="list-style-type: none"> すべての自然をそのまま残すことは不可能。新しい機能の誘導と形を変えながら価値を継承することは必要だと思う。 民間や住民等と連携しながらエリアマネジメントの徹底を図ってほしい。 太陽光、廃棄物リサイクルのほか、風力、小水力、下水汚泥等「炭素ゼロ」タウンの実現を目指す。 新たなインターチェンジや新たな交通はしっかり整備してほしい。 「継承する価値」があるのは「戦後手つかずで自然が残っている」ことだと思う。このままの自然を残してほしい。 |
| 観光・賑わい地区 (105件) | <ul style="list-style-type: none"> デザインについては隣接する地区と調整する必要がある。 観光・賑わい施設が完成して活気が出ることは喜ばしいこと。交通対策にしっかり取り組んでほしい。 テーマパーク等は作るべきではない。 |
| 農業振興地区 (63件) | <ul style="list-style-type: none"> 上瀬谷だからこそできる他地区との相乗効果を期待できる内容にしてほしい。 様々な採れたて野菜を直売する施設があるとうれしい。 農業の体験施設等の誘致を期待している。 |
| 物流地区 (36件) | <ul style="list-style-type: none"> 周辺の緑や農地に配慮したものを期待している。 大規模物流ネットワークを災害時にも活かし復旧拠点としたらどうか。 物流を進めるなら、保土ヶ谷バイパスと東名高速から物流エリアに直接入る道路を作って一般道の通過は認めないようにすべき。 |
| 公園・防災地区 (53件) | <ul style="list-style-type: none"> 遊具の設置ではなく自然を感じられるキャンプ場等を検討してほしい。 四季の花や自然を楽しめるようにしてほしい。 広域の防災と地域の防災が連携できるとよい。 |

・その他

瀬谷区上瀬谷通信施設返還対策協議会及び旭区連合自治会町内会連絡協議会から、「デザインノート案に基づいて着実に事業を推進してください」というご意見をいただきました。

2 観光・賑わい地区の事業提案募集

郊外部の新たな活性化拠点の形成を目指し、観光・賑わい地区において、事業提案の公募を、2月末から開始します。募集内容については、以下の方向性で、審査委員会において審議中です。

(1) 事業用地・提案に関する条件

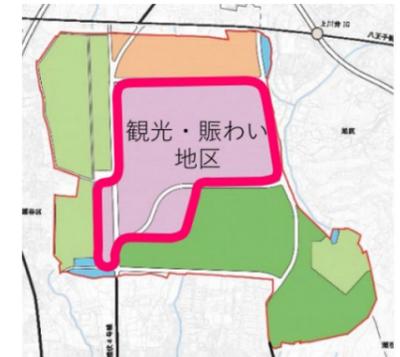
- 観光・賑わい地区、約70haによる一体での土地活用
- テーマパークを核とした複合的な集客施設の土地活用

(2) 土地の売却または貸付条件

対象地は保留地約40ha（売却予定）および換地（民有地）約30ha（貸付予定）を想定していますが、売却または貸付の価格については現時点での調査価格を示します。

(3) その他

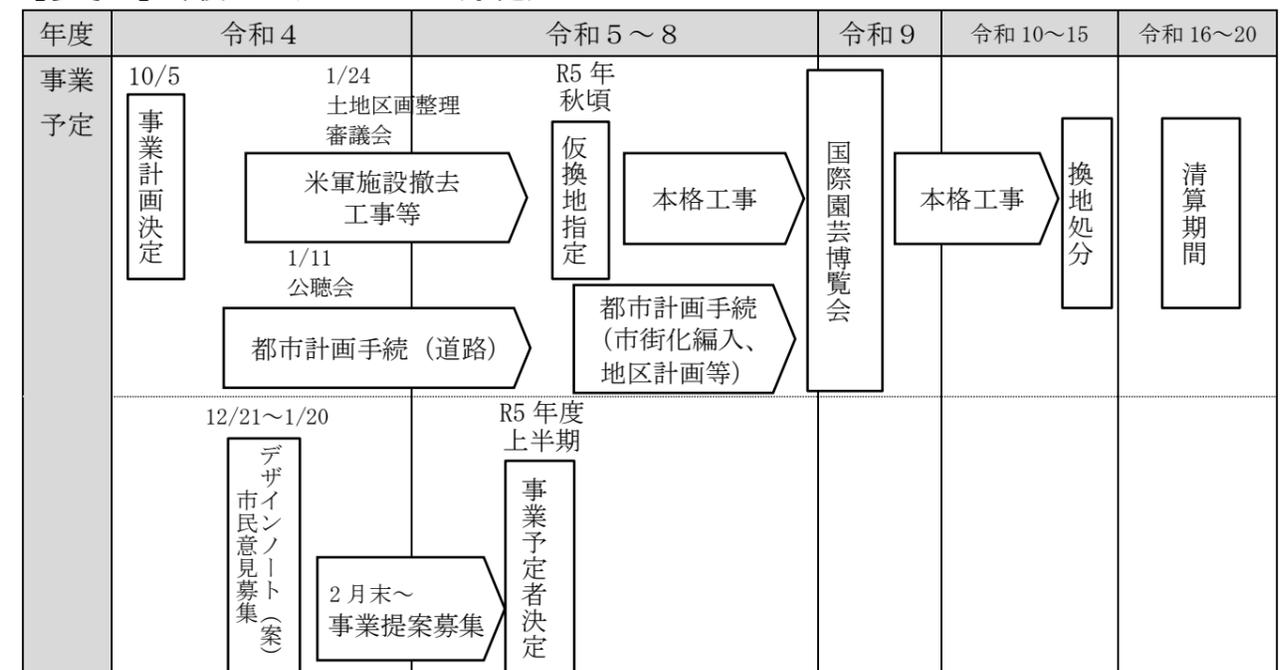
事業予定者の選定にあたっては、価格競争での評価は対象とせず、デザインノートを踏まえ、事業内容や周辺地域の活性化への貢献等を評価する公募型プロポーザル方式により、広く事業者を募ります。



3 土地区画整理事業の進捗状況

現在、米軍施設撤去工事を進めています。今後、本格的に工事を実施していくにあたっては、現在の地形を活かしていくため、切土盛土を極力少なくするようにしていきます。また、砲弾等が存在している可能性があることを踏まえ、磁気探査調査を行うなど、安全に十分配慮していきます。

【参考2】今後のスケジュール（予定）



※地権者調整、都市計画手続に伴い、事業計画変更を予定しています。

4 2027年国際園芸博覧会の開催に向けた取組状況について

(1) 2027年国際園芸博覧会基本計画策定

昨年より、博覧会協会がとりまとめを進めていた基本計画については、令和5年1月10日に策定しました。意見募集の結果・考え方とあわせて、Webサイトに公表しています。

今後、基本計画に基づき、各事業を推進するとともに、出展者、支援者、来場者に向けた機運醸成等の取組を実施し、2027年の開催に向けた準備を進めていきます。

(2) 開催1500日前における取組

令和5年2月8日（水）に、開催1500日前発表会が大手町プレイスカンファレンスセンターにて開催され、博覧会協会が以下の内容を発表しました。

① 正式略称

「GREEN × EXPO 2027 （グリーンエクスポ ニーゼロニーナナ）」

「植物」、「花」、「緑」を総称する言葉であり、「自然」、「環境にやさしい」という意味を持つ「GREEN」、国際的に共通する課題の解決に寄与する国際博覧会「エクスポ」という語を掛け合わせることで、SDGsの達成や、GX（グリーントランスフォーメーション）の実現に貢献する博覧会として、これからの自然と人、社会の持続可能性を追求し、世界と共有する場であることを表現しています。

② 公式ロゴマーク最優秀賞作品

令和4年10月20日から11月5日まで行った一般応募により、1204作品のご応募をいただきました。その中から、「デザイン審査」、「知的財産権関連調査」を行い、最終候補作品を選出し、博覧会に関わる有識者や専門家などによる「選考委員会」の選考により決定しました。



正式略称発表の様子



公式ロゴマーク最優秀賞作品発表の様子

③ 推進体制

<GREEN × EXPO ラボ（創生組織）メンバー>

国際園芸博覧会のみならず、そのレガシーやこれからの横浜のまちづくりも視野に入れ、博覧会のテーマである「幸せを創る明日の風景」を実現する観点から活動を行う専門家体制として「GREEN × EXPO ラボ」が設置されました。

- ・チェアパーソン（総合監修・ランドスケープ）
涌井 史郎
- ・運営事業チーフディレクター（会場運営・管理、催事、広報）
若松 浩文
- ・農&園藝チーフコーディネーター（花き園芸・造園・農の展示等）
賀来 宏和
- ・マスターアーキテクト（建築）
隈 研吾

<クリエイター>

- ・クリエイター（屋内展示企画・キービジュアル開発）
蜷川 実花



開催1500日前発表会の様子

(3) 今後のスケジュール（予定）

| 年度 | 項目 |
|---------------------|--|
| R5 (2023) | 認知度向上に向けた幅広い広報展開、企業等への積極的なプロモーション、会場計画や運営計画の具体化 |
| R6 (2024)～ | 展示・出展参加者募集、会場整備着工、行催事参加者募集、チケットプロモーション、公式ガイドブック発行等 |
| R8 (2026)～R9 (2027) | 国際園芸博覧会開催〔令和9 (2027)年3月19日～9月26日〕 |